

第2回地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）延伸協議会

まちづくり分科会 議事録

○日 時：平成29年12月26日（火）10：00～11：40

○場 所：大宮区役所 本館6階 大会議室

○出席者

【委員】（敬称略）

分科会長 久保田 尚：埼玉大学大学院教授 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門

瀬田 史彦：東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授

山下 智史：（株）JTB関東 地域交流グローバルチーム担当マネージャー
観光開発プロデューサー

吉田 育代：（株）日本経済研究所 調査本部 上席研究主幹

山崎 明弘：埼玉県 企画財政部 地域政策局長

岡崎 繁：さいたま市 都市戦略本部 理事

○議題及び公開又は非公開の別

（議題）

（1）報告事項

第1回地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）延伸協議会 鉄道分科会の報告について

（2）協議事項

- ① （仮称）さいたま市東部地域まちづくり計画（基本計画、行動計画）について
- ② 浦和美園駅周辺、岩槻駅周辺、中間駅周辺、延伸線全体のまちづくりについて
- ③ 沿線開発の人口設定・交流人口の設定について

（公開・非公開の別）

公開

○傍聴者数 4人

○審議した内容

- ① （仮称）さいたま市東部地域まちづくり計画（基本計画、行動計画）について
- ② 浦和美園駅周辺、岩槻駅周辺、中間駅周辺、延伸線全体のまちづくりについて
- ③ 沿線開発の人口設定・交流人口の設定について

1. 開会

〈司会〉

本協議会は公開を原則とするため、報道関係者・傍聴者ありということについて御了承頂きたい。

2. 議事

(1) 報告事項

〈事務局〉

(資料1 第1回地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)延伸協議会 鉄道分科会の報告について 説明)

(意見なし)

(2) 協議事項

① (仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画(基本計画、行動計画)について

② 浦和美園駅周辺、岩槻駅周辺、中間駅周辺、延伸線全体のまちづくりについて

〈事務局〉

(資料2 1. (仮称)さいたま市東部地域まちづくり計画(基本計画、行動計画)について

資料3 2. 浦和美園駅周辺、岩槻駅周辺、中間駅周辺、延伸線全体のまちづくりについて をまとめて説明)

〈吉田委員〉

基本計画、行動計画を整理してわかりやすくなったと思う。資料2-3にある基本計画の方針の2つ目で「埼玉高速鉄道線への成長支援と協働のまちづくり」とあるが、これは鉄道と沿線地域周辺の両方を成長支援ということか、もしくは沿線地域のみを成長支援ということか。

〈事務局〉

基本的には埼玉高速鉄道線沿線の魅力向上を図るため、イベントの開催などを地域の方々と協力して進めるものである。

〈吉田委員〉

この方針だと、鉄道そのものを支援するように思えてしまう。沿線地域を支援することが理解できるようにするべきである。

〈事務局〉

再度検討し、修正する。

〈吉田委員〉

行動計画の目標値についてはどう考えているのか。例えば岩槻駅周辺地区でターゲットを定めて情報発信するとあるが、この方策を進めることで現在の交流人口がどの程度増加出来ると見込んでいるのか。

また、中間駅周辺地区についても資料 3-6 の中で交流人口 3,000 人とあるが、これは現状と比較してどのくらい増えるのか。

資料 1-3 にある需要予測の前提条件と、行動計画で示される交流人口・定住人口はどのような関係になるのか。

〈事務局〉

岩槻駅周辺地区の交流人口については、H28 年度時点で 47.1 万人となっている。これを H29 年度までに 48.1 万人にする目標としている。その先の目標については、本年度に算出する B/C の結果等を見ながら再設定したい。

中間駅周辺地区については、資料 3-6 で将来的な定着人口を 500 人、交流人口を 3,000 人と示しているが、現在、約 5ha の産業地がありそこで約 500 人が就業している。また、既存の住宅地にも約 500 人居住していることから、それにプラスしていくということである。

〈久保田分科会長〉

資料 1-3 にある需要予測の前提条件の中に、これからの岩槻駅周辺地区のまちづくりや中間駅周辺地区の交流人口創出の効果がどのように入っているのかがわからない。現在の需要予測ではこれらの効果は見込まずに算出しているのか。

〈事務局〉

中間駅周辺地区については交流人口創出型（Ⅱ型）を想定し、定着人口 500 人、交流人口 3,000 人を加味して計算する。岩槻駅周辺地区については（仮称）にぎわい交流館いわつきの年間来館者数を交流人口として加味する。

〈吉田委員〉

需要予測の前提には行動計画で示されている目標値は含んでいないのか。

〈事務局〉

その通りである。

〈吉田委員〉

行動計画の目標値が中間駅周辺地区は設定されていて、岩槻駅周辺地区は今後再設定するということが、行動計画の中で需要予測の前提に含まれるものと含まれないものがあるということか。

〈事務局〉

その理解である。

〈山下委員〉

資料 3-2 にある「関連する主な方策」のさいたま市総合振興計画の中に「都市機能の強化」とあるが、具体的な考えはあるか。

また、岩槻駅周辺地区でターゲットに合わせた観光情報誌等の作成とあるが、岩槻でどのように過ごしてもらおうかということが非常に重要であり、様々な観光コンテンツをどのように利用して過ごしてもらおうかということをしっかり伝えることが重要だと思う。

訪日外国人が 2,800 万人を超えるであろうこと、東京オリンピック・パラリンピックで 4,000 万人の外国人を迎える予定であることを踏まえ、岩槻に行きたくなるような仕掛けを行政だけではなく民間と協力しながら考えていくことが重要である。

観光における重要な要素として、気候・自然・文化・食事がある。岩槻の場合、気候と自然については特徴的な要素はあまりないが、文化については城下町、人形、歴史等の特徴的な要素があり、食事についても古くからある料亭等があることから、工夫次第では岩槻に行きたくなるように出来るのではないか。

川越はテレビドラマの放送以降、観光客が来るようになったが、以前は食べ歩きができる店舗が少なかった。今ではさつまいもや、ソーセージなど食べ歩きができる工夫がされて、観光客が増えた。埼玉において西の川越、東の岩槻となるように持っていければ良いと思う。

盆栽美術館を作る際に、外国人観光客を呼び込むため、外国人が滞在するであろう都内のホテルに多言語パンフレットを届けた。特に評判が良かったのが帝国ホテルと谷中にある日本風和旅館だった。

岩槻に人形博物館ができるのであれば、過ごし方も含めて岩槻の魅力がわかるようなパンフレットを外国人が接するような雑誌やインターネットで発信することが大事だと思う。

〈事務局〉

「都市機能の強化」について想定しているが、まだ具体的なものは決まっていない。まずはさいたま市全体、岩槻区でなにが不足していて、どのような需要があるのかを

検討して機能強化を図りたい。

他のご意見については、今後のまちづくりの参考とさせていただきたい。

〈瀬田委員〉

景観形成という面からみると、川越は長期にわたって景観を作ってきたまちである。岩槻はまだまとまった形で景観形成がなされていない。取組の期間として、鉄道が建設されるまでの取組も重要であるが、20～30年の長期的な目標もしっかり示すことが大事だと思う。

景観ガイドラインもあると聞いており、そういった住民活動や住民の思いを大切にして計画を描くことが重要だと思う。

〈久保田分科会長〉

資料3-6、3-7にある中間駅周辺地区のまちづくり選定案については、さいたま市の都市計画部門と調整した上での判断か。

〈事務局〉

現時点で中間駅周辺地区のまちづくりが計画に位置付けられているものではないが、都市計画部門を含めた庁内会議協議した結果であり、調整はできていると考えている。

③ 沿線開発の人口設定・交流人口の設定について

〈事務局〉

(資料4 3. 沿線開発の人口設定・交流人口の設定について 説明)

〈瀬田委員〉

資料1-2にある4つの需要予測ケースでは、中間駅周辺地区の開発効果が把握できない。埼玉スタジアム駅の常設化や快速運転よりも、中間駅周辺地区の開発効果の方が大きいのではないかと思う。

〈事務局〉

今回の調査では沿線開発は浦和美園駅、中間駅、岩槻駅の3駅を合わせた予測になっており、単独の効果は把握できない。今後検討したい。

〈久保田分科会長〉

浦和美園駅、岩槻駅についての鉄道利用者推計はあるのか。

〈事務局〉

岩槻駅と浦和美園駅については人口をビルドアップ曲線で推定し、その人口を基に需要予測で駅利用者数を算出する。

〈山崎委員〉

資料 3-6 にある中間駅周辺地区の交流人口 3,000 人、鉄道利用者数が 600～1,200 人という数値は平成 23 年度に作られたものから変わっていないのか。

〈事務局〉

変更していない。

〈山崎委員〉

時代の潮流として、AI、ロボット、IOT 等が急速に進歩しており、産業に対する従業者の減少が想定されている。そうしたことも考慮した上で交流人口や鉄道利用者を想定しないといけないのではないかと思う。

産業を主体としたまちづくりよりも、全国的には人口減少社会ではあるが、さいたま市は人気があるので定住人口を増やす方が堅実ではないかと思う。そのあたりについてはさいたま市でよく検討してもらいたい。

基本計画で「鉄道を育てる」という理念を掲げていることから、行動計画においては鉄道利用者の増加につながるような具体的な計画と数値目標を設定してもらいたい。

〈吉田委員〉

中間駅周辺地区については、産業系従業者を 3,000 人と設定しているが、その目標を達成するための産業集積に関わる方策についてあまり触れられていないので充実させるべきだと思う。さいたま市として産業集積についてはどのように考えているのか。

〈事務局〉

中間駅周辺地区のまちづくりについては、資料 3-5 にある「持続可能なまちづくりに向けた検討」の中で調査・検討していきたいと考えている。

〈関東地方整備局 建政部 都市整備課 川崎課長〉

コンパクト+ネットワークというまちづくりのキーワードが注目されており、新たな市街地整備を行いきにくい状況である中においても、新たな需要を生み出す新規整備も必要であることから、この計画には注目している。

そうした中で、浦和美園駅、岩槻駅周辺では人口が増えていくとしているが、さいたま市全体の人口は 2030 年までに横ばいとなっている。浦和美園駅、岩槻駅周辺で人口が増える分、市内の他地域の人口が減少して市内の人口バランスが変わっていくと考えているのか。

〈関東地方整備局 建政部 都市整備課 川崎課長〉

人口が計画通りに張り付くかは慎重な検討が必要であるが、将来的にどこに人口や産業が集中し、それらを結ぶネットワークとして鉄道が必要だという形になれば良いと思う。

〈久保田分科会長〉

需要予測のやり方として、岩槻区全体の人口は減少していく中で、岩槻駅周辺は増加するがその周りはかなり減少するという理解でよいか。

〈事務局〉

需要予測の設定については、総合振興計画後期基本計画の数値をさいたま市全体の数値として考慮し、浦和美園、岩槻駅周辺の開発が進んでいる部分はビルドアップ分の増加分は調整を図る。

〈久保田分科会長〉

駅周辺の人口が増えるのであれば、遠方部は減らないとおかしいのではないか。

〈事務局〉

さいたま市全体の人口は開発の有無で変えないが、区毎の人口は開発がある場合他区が減少させるなど調整を図る。

〈瀬田委員〉

資料 1-5 では、総振と実績が一致しているので、岩槻区の人口が増えるとなるとこれと矛盾するのではないか。

〈事務局〉

資料 1-5 のグラフはすう勢ケースの場合である。

〈瀬田委員〉

資料 1-3 ではすう勢ケースと開発ケースで区の人口が同じと見えてしまう。

〈事務局〉

資料 1-3 では区毎の人口設定について記載していないが、さいたま市全体の人口は各ケース同じである。

〈岡崎委員〉

さいたま市総合振興計画後期基本計画では、さいたま市の人口は平成 37 年をピークに減少すると予測されている。現在、次期総合振興計画の作成にあたり、平成 27 年の国勢調査の結果を踏まえて新たな人口見通しを作成中である。それによると、人口ピークは変わらないが、人口は資料 1-5 に示している 1.5 万人を上乗せした人口以上の数値が算出されている。次回、議論いただきたい。需要予測への影響等についても検討が必要だと考えている。

岩槻区に関しては平成 27 年の国勢調査と後期基本計画の人口推計がほぼ一致している。これに対して岩槻駅周辺のビルドアップを考慮することは相反することになるかもしれない。しかし、今後七里駅の開発など、人口増が見込まれるところもある。

さいたま市として現況を調査して必要な施策を実施することを前提にビルドアップを仮説としたものを「開発ケース」と考えている。

〈久保田分科会長〉

岩槻区内で人口移動があるのか、他地域から流入するのかで前提が大きく異なるので、次回までに整理が必要である。

有用な議論になった。今回はこれで終わりとしたい。

〈司会〉

次回の開催予定は以下のとおり。

- ・第2回延伸協議会：1/22（月）18:00～ 浦和コミュニティセンター第13集会室
- ・第2回鉄道分科会：1/15（月）18:00～ 浦和コミュニティセンター第13集会室

3. 閉会

○問合せ先 さいたま市 都市戦略本部 東部地域・鉄道戦略部
電話番号 048-829-1871
FAX 048-829-1997